

## 7 - 1 被害地震震央の存在範囲

### Error of Epicenters for Earthquakes accompanied by Damage

東大地震研究所 宇佐美 龍 夫  
Tatsuo Usami  
Earthquake Research Institute,  
University of Tokyo.

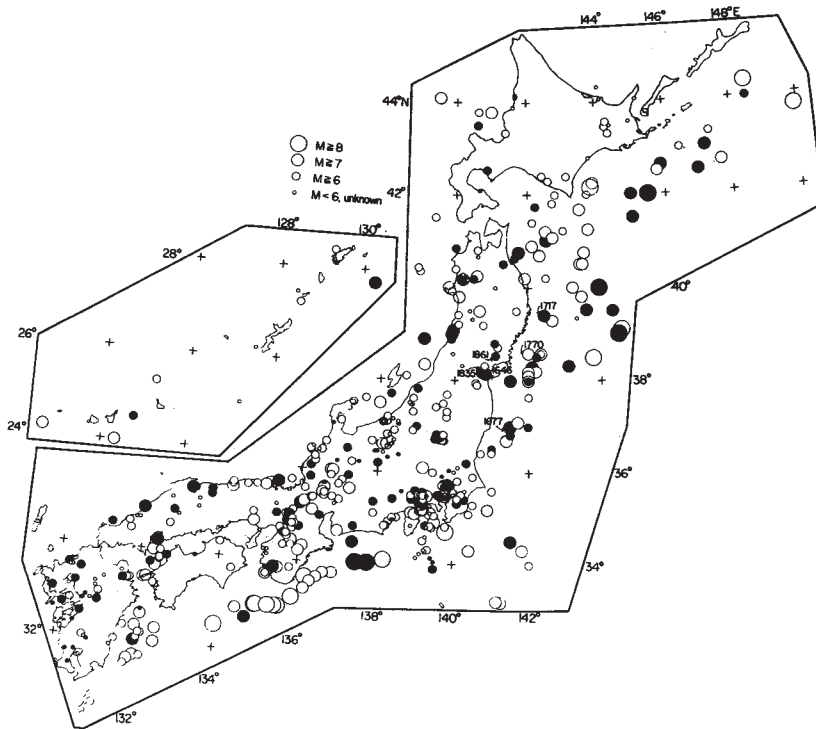
わが国における有史以来の被害地震の震央位置の再検討を行った<sup>1)2)</sup>。1925年までの地震をとり上げた。1926年以後は気象庁発表の震央が十分な精度をもっているので検討の対象としなかった。震央位置の再吟味に当っては推定震度分布，被害分布，津波の状況などを考え，最近の類似の地震と比べる方法をとった。しかし，史料が十分でない地震が多く，筆者の経験と主観にもとづく所も多い。十分注意して利用していただきたい。また，はっきりした理由のない場合には，できるだけ，従来の震央位置を変更しないように心がけた。

第1図は有史以来，1972年までの被害地震の震央分布で，黒丸は今回の再吟味により震央位置に変更のあったものおよび，新たに震央位置が求められたものを示す。その数は全体の約 $\frac{1}{4}$ に達する。地震の西暦年の入っているものは，吟味結果に自信がなく，資料の解釈によって変更のありうるものである。

第2図は有史以来，1925年までの被害地震の存在範囲を示したもので，図中の四角な枠はその中に震央が存在するという意味で，最大の範囲を示している。小さな黒丸は，史料が十分でなく，範囲を推定できない地震である。西暦年号の意味は第1図と同じ，とくに1770年の地震は，従来から震央が求められているが，史料が十分でなく，震央位置不明と考えた方がよいと思われる。

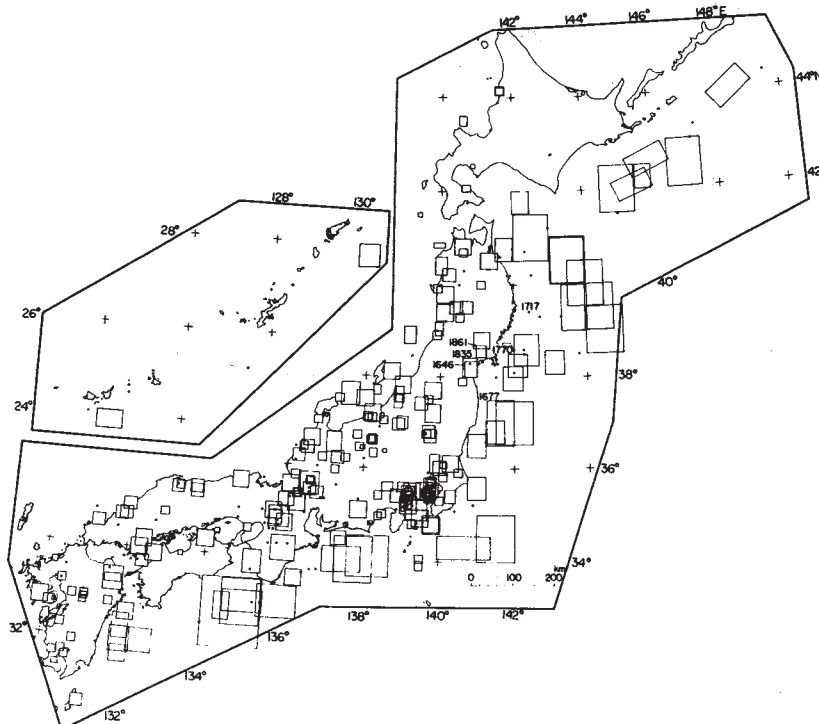
#### 参 考 文 献

- 1) 宇佐美龍夫，関東地方の古い地震々央位置の範囲，関東大地震50周年論文集，1 - 12, 1973
- 2) 宇佐美龍夫，歴史的地震の震央位置について，印刷中



第1図 416～1972年の被害地震の震央

Fig. 1 Distribution of earthquakes accompanied by damage between 416 ~ 1972. Solid circles are revised epicenters. Epicenters with occurrence year have low accuracy.



第2図 416～1925年の被害地震の存在範囲

Fig. 2 Existence region of epicenters for historical earthquakes with damage, between 416 ~ 1925. Dot is epicenter for which the existence region could not be determined.